

第2部：10：20～11：30

〈特別講演〉

なぜ「尾道100キロ」か —「若い力を若い力が育てる」プロセス—

次世代育成思想・企画・運営・成果を検証する

NPOおのみち寺子屋 理事長 柿本 和彦

〈インタビュー・ダイアローグ〉

登壇者：NPO おのみち寺子屋 理事長

柿本 和彦

聞き手：交流会代表世話人 九州共立大学名誉教授

古市 勝也

青少年教育施設サンビレッジ茜 理事長

森本 精造

〈登壇者プロフィール〉

●柿本 和彦 広島県 特定非営利活動法人おのみち寺子屋理事長 尾道市議会議員



2003年、「おのみち100km歩徒の旅」を創設。この事業は、小学校4年～6年の子どもたちを対象に自分達の郷土である尾道市内100kmのコースを4泊5日で歩き抜く。子どもたちのサポートは、氏が指導する学生リーダーが当たる。指導者が若者を鍛え、鍛えられた若者が少年を鍛えるという循環が機能している。仲間と共に100キロを歩き抜く中で、自身の内面を見つめ、人との関わりを学び、忍耐力、協調性、積極性、優しさを備えた未来の日本人を鍛えている。サポート役の学生の多くが本大会にも参加しているので声をかけていただけると幸いである。

〈聞き手〉

●古市 勝也 福岡県 九州共立大学名誉教授 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会代表世話人



九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学地域連携室長を経て、(現)九州共立大学名誉教授、放送大学・福岡教育大学非常勤講師。現在、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表として、各地で生涯学習・まちづくりについて講演、シンポジウム、司会などでも活動中。

●森本 精造 福岡県 (一財)サンビレッジ茜 理事長



元福岡県社会教育課長、元福岡県立社会教育総合センター所長、元飯塚市教育長。小学校に導入した「子どもマナビ塾」、「熟年者マナビ塾」など多くの先駆的行政施策を実施。辞任後はNPOを立ち上げ、28年3月まで高齢者と子どもたちの交流事業に着手。現在はサンビレッジ茜の理事長として宿泊型学童保育「タフ塾」など展開中。